

令和8年6月8日  
愛媛大学

## 「映画『手に魂を込め、歩いてみれば』上映会 —「世界難民の日」に—」を開催

愛媛大学法文学部多様性研究会・愛媛大学SDGs推進室では、このたび「映画『手に魂を込め、歩いてみれば』上映会—「世界難民の日」に—」を下記のとおり開催します。

このイベントは、廃墟のガザ地区で撮影を続ける24歳のパレスチナ人女性フォトジャーナリストと、彼女を見守るイラン出身の監督が1年間にわたって紡いだ上記のドキュメンタリー映画を、国連「世界難民の日」に無料で公開上映することにより、平和・人権・公正な問題解決等について、市民と共に考える契機とすることを目的に実施するものです。

つきましては、地域へ広く周知いただきますとともに、取材くださいますようお願いいたします。

### 記

日時：令和8年6月20日（土） 13時30分～16時30分

場所：愛媛大学城北キャンパス 共通講義棟B4階

アクティブ・ラーニングルーム2（開場：13時）

対象：一般（中学生以上）

定員：80人

参加費：無料

参加申込方法：事前申し込み 不要

駐車場：無

公共機関のご利用をお願い致します。市電「赤十字病院前」より徒歩5分。

主催：愛媛大学 法文学部 多様性研究会

共催：愛媛大学 SDGs推進室

本件に関する問い合わせ先

愛媛大学法文学部多様性研究会

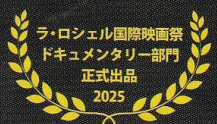
諸田龍美

TEL：090-7629-5343

Mail：morota@ehime-u.ac.jp

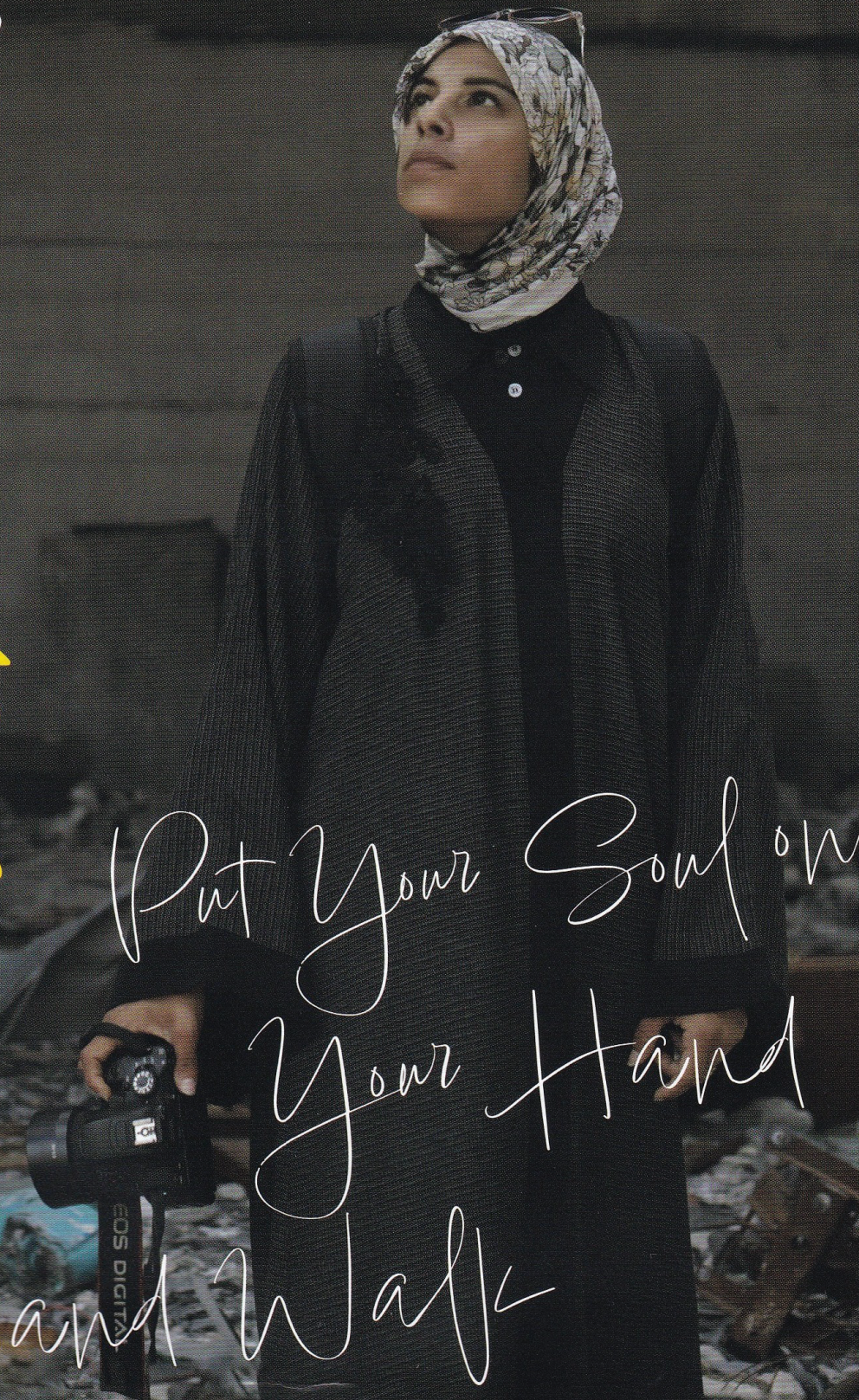
※送付資料3枚（本紙を含む）

カンヌ国際映画祭2025 ACID部門正式出品 映画批評家ランキング第1位



”  
破壊されゆく世界に  
少しでも光を――  
“

歩いてみれば



手に魂を込め

廃墟のガザで撮影を続けるフォトジャーナリストと、  
彼女を見守るイラン人監督――

1年にわたるビデオ通話で紡がれた比類なきドキュメンタリー

登場人物：セピデ・ファルシ、ファトマ・ハッソーナ 監督：セピデ・ファルシ プロデューサー：ジャヴァド・ジャヴァヘリ

制作：Rêves d'Eau Productions, 24images Production 配給：ユナイテッドピープル 113分/フランス・パレスチナ・イラン/2025年 ©Sepideh Farsi Reves d'Eau Productions

STARS SEPIDEH FARSI, FATMA HASSONA DIRECTED BY SEPIDEH FARSI PRODUCED BY JAVAD DJAVAHERY PRODUCTION COMPANIES RÊVES D'EAU PRODUCTIONS, 24IMAGES PRODUCTION JAPAN DISTRIBUTION BY UNITED PEOPLE

# “彼女の生きる力は奇跡のようだった” — カヌ映画祭 ACID 部門

「今こそ この戦争を撮って世界に見てもらふ必要がある。苦しみを全て記録するの。他に誰がやる？」

— ファトマ・ハッスーナ

「映画には、彼女たちのメッセージを伝える義務が、社会を映し出す役割がある。手遅れになる前に行動を。」

— カヌ映画祭 2025 前夜、リチャード・ギア、マーク・ラファロ、ガイ・ピアース、レイフ・ファインズなど350人以上の業界関係者がファトマ殺害と業界の沈黙を非難し署名した手紙より。



イスラエルによるガザ攻撃が続いていた2024年、イラン出身の映画監督セピデ・ファルシは、緊急に現地の人々の声を届ける必要性を感じていた。しかし、ガザは封鎖されており行くことは出来ない。そこで、知り合ったガザ北部に暮らす24歳のパレスチナ人フォトジャーナリスト、ファトマ・ハッスーナとのビデオ通話を中心とした映画の制作を決意する。以後、イランからフランスに亡命したため祖国に戻れない監督と、監督の娘と同じ年齢で、ガザから出られないファトマとのビデオ通話が毎日のように続けられた。そして、ファトマは監督にとってガザを知る目となり、監督はファトマが外の世界とつながる架け橋となり、絆を築いていく。

ファトマは空爆、饑餓や不安にさらされながらも力強く生きる市民の姿や、街の僅かな輝きを写真に収

め、スマホ越しにガザの様子を伝え続けた。監督が「彼女は太陽のような存在」と形容するうちに、彼女はいつも明るかったが、度重なる爆撃で家族や友人が殺されていくにつれ、表情を暗くしていく。そして悲劇はファトマをも襲う。2人が交流を始めて約1年後の2025年4月15日、本作のカヌ映画祭上映決定の知らせを、ファトマは喜んだが、その翌日、イスラエル軍の空爆でファトマを含む家族7人が殺されてしまったのだ。25歳になったばかりのファトマの死は、本人が「もし死ぬのなら、響き渡る死を望む」と書いたように、世界中に波紋を広げることになる。



「ファトマは今夜、私たちと共にいるべきでした。芸術は残り続けます。」 — カヌ映画祭 2025 審査員長  
ジュリエット・ピノシュ 開会式スピーチ



登場人物: セピデ・ファルシ、ファトマ・ハッスーナ 監督: セピデ・ファルシ プロデューサー: ジャヴァド・ジャヴァエリー 制作: Rêves d'Eau Productions, 24images Production 配給: ユナイテッドピープル 113分/フランス・パレスチナ・イラン/2025年 ©Sepideh Farsi Reves d'Eau Productions 原題: Put Your Soul on Your Hand and Walk

手に魂を込め、歩いてみれば



映画の上映会主催者募集!  
詳しくは [cinemo.info](http://cinemo.info) へ  
お問合せ [film@untitedpeople.jp](mailto:film@untitedpeople.jp)



【無料】上映会を開催します 日時: 2026年6月20日(土) 13:30~16:30(開場 13:00) 参加費: 無料  
場所: 愛媛大学城北キャンパス(文京町3番) 共通講義棟B 4階 アクティブ・ラーニングルーム 2  
※事前申し込み不要/プログラム: 難民支援の話(15分)+映画上映(113分)他/主催: 法文学部  
多様性研究会/共催: 愛媛大学 SDGs推進室/お問合せ: 法文 諸田龍美(morota@ehime-u.ac.jp)